5306

色に対する感情の客観的考察

Objective Consideration of Feelings for Colors

CS16　片山雅裕
指導教員　杉本文司

1. はじめに

私たちの身の回りには，食べ物や衣服，植物などさまざまな色があふれている．その色はひとつひとつ特徴をもっていて，寒い・暑い・綺麗・汚いなど，色から受けるイメージや影響は多い．色に対するイメージは，人によって同じ場合も違う場合もある．各色のイメージや印象は，すでに多くの文献やWeb上に記載されている．今回は，色に対するイメージを客観的に考察したい場合に，有効と考えられる評価手法を調査すると共に，いくつかの評価手法を使用したアンケートを実施し，特徴を調べてみた．

2. 調査

評価方法を用いることの利点は，選択や評価をさせて複合的，多次元的に考察することで，個人のイメージに捉われず，色に対する感情を客観的に考察できるということである．

私の調査した中では5つの評価方法を見つけた．その中で，アンケートに使用した3つの評価方法について簡単に紹介をする．詳しくは本論文を参照してもらいたい．

2-1. SD 法

評定尺度と呼ばれる反対の意味をもつ形容詞対（暖かい-冷たいなど）を幾つか用意し，多くの人に概念や対象の印象を測定してもらう方法．

2-2. 自由記述法・自由連想法

被験者に意見や連想したものなどを自由に記述してもらう方法．

2-3. 選択法

選択法は，多数の案の中から，被験者が好ましいと思うものを選択してもらう方法．

3. アンケート実施

＜対象＞
サレジオ高等専門学校　情報工学科3年生41人
サレジオ高等専門学校　情報工学科5年生45人
＜調査期間＞
2007 年 12 月
＜内容＞
被験者に「赤，橙，黄，緑，青，白，灰，黒」について SD 法，自由記述法・自由連想法，選択法の3つの方法を使用したアンケートを実施した．

4. 考察

ここに SD 法による結果を示す．詳細や，他の評価方法については，本論文を参照してもらいたい．

4-1. SD 法

SD 法は，図1の様に結果を表すことができる．左側に良いイメージの語句を，右側に悪いイメージの語句を並べた．気分が良いときの色として一番選んだ人が多かった「赤」は，やはり全体的に左側寄りになり，赤に対して良いイメージを持っている人が多いことがうかがえる．このように色彩について詳しいとは言えない人でも，SD 法の数個の評定尺度を見るだけで，その色のイメージをある程度理解することができる．

SD 法は，被験者が多ければ多いほど良い値が取れるので，更に良い結果を求めるには，もっと多くの被験者の回答を総合的に見ることが必要だと感じた．

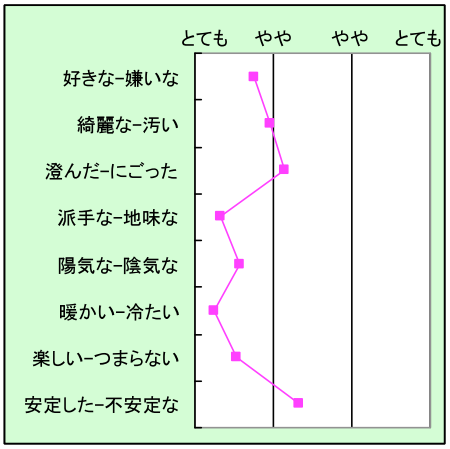

図1. SD法による「赤」のイメージ

5. 今後の課題

今回，アンケートで使用した，SD 法や自由連想法などの調査方法は，アンケートを実施する環境の光の強さなど，ちょっとした違いによって色に違いが出てしまうなど，整えられた環境下でやる事が大切だと言う事が分かった．

今後，色に関連したアンケートを実施することになった場合には，環境面や被験者の人数などアンケート実施の際の留意点に注意を払っていくことが必要だと感じた．

参考文献

[1] 財団法人日本色彩研究所『色彩と人間』(色彩ワンポイント 5) 日本規格協会 124pp.
[2] 森尚美 『わかる！色彩能力検定 3 級 ポイントレッスン』新星出版社 222pp (May 2005)